

ポロミンタラ 観光インフォメーションセンター 再OPEN



コロナウイルス感染症対策としてしばらく休館していた白老駅北観光インフォメーションセンターが5月28日、再オープンしました。物販コーナーなどを本格陳列させ案内業務、営業などを開始。食品関連は順次ですが、間近に迫ったウポポイ開業に向け準備は万端のようです。



町制施行60周年を記念して、平成26年に旧アイヌ民族博物館に設置された碑を、道敷地内に土台を造り移設しました。
山本浩平代

周辺整備に一役

表取締役は「町の観光拠点で武四郎のことも知ってほしい」と話していました。

(株)マルトラ
松浦武四郎記念碑を移設

白老ロータリークラブ 石製ベンチ15基を寄贈

同敷地内にベンチ15基（150万円相当）を寄贈しました。ベンチは大理石を加工したもので、奥行は40cm、横は大人が2、3人座れる120cmほど。山本浩平会長は「快適にくつろげるような空間に」と同所のにぎわいに期待しています。



白老楽しく・やさしいアイヌ語教室「金成マツ筆録 盤木アシンナン口述ウエペケレ8話の研究」を刊行

「白老楽しく・やさしいアイヌ語教室」を主宰する大須賀るえ子さん（80）が、「金成マツ筆録 盤木アシンナン口述ウエペケレ8話の研究」を刊行しました。道立図書館所蔵の文献を研究して、日本語訳を付けました。大須賀さんは「こういう形で世に出るのは初めてです。アイヌ口承文学がより多く人に理解される一助になれば」と願っています。

B5判、255頁。アイヌ民族文化財団の助成を受け、200部作成。町内の小中学校や図書館に計16冊寄贈しました。

マツさんは登別生まれのアイヌ女性で、「アイヌ神謡集」の知里幸恵さんの叔母。膨大なユカラ（英雄叙事詩）やウエペケレ（散文説話・昔話）をローマ字筆記体で筆録した「金成マツ筆録ノート」を残しました。道立図書館にマイクロフィルムで所蔵されていますが、ユカラは研究者らの翻訳も多い一方、160編に上る

「アイヌ口承文学の奥深さを知ってほしい」

ウエペケレは未訳のままになっていきます。

原文コピーを取り寄せ、大須賀さんほか教室メンバー6人で昨年4月から

翻訳作業を始めました。「婦人が家の周りで火を焚く」「貧しい爺と婆の口喧嘩」など8話からなっています。

メンバーは、慣れない肉筆のローマ字筆記体に四苦八苦しながらも、根気よく地道な作業の末、今年2月に完成させました。

大須賀さんは「読み進めると、人間と神が関わる物語のすごさ、おもしろさに引き込まれ、ハラハラ、ドキドキでした」と作業を振り返り、「アイヌ文学が奥深いものであることを知ってもらいたい」と話していました。

